

[わたしと美術館]

模写に命をかける人—河津友重先生—

日本画家 三井田 久子

うしろ姿をみつめているだけで段々にその人間の顔の表情や手の動き、はては胸のひびきや息まで伝わってくるのを感じることができるようになったのは、つい最近のことです。時々その頭からたちのぼる目にみえない一種不思議なる光や靈氣は、不死身とも言えるその身体を包んで、独特な体内の氣力を発散させています。

その人間とは、模写一すじに歩いてこられ、今も変わりなく絵筆をにぎっておられる京都在住の画家河津友重先生(八十四才)の事です。先生は背中でもの言える方です。これまでに呼吸をなされた多くのものが、木目のようにきちんと積み重なって樹木の年輪のようになっているのです。制作に向かわれる熱意はすさまじいものがあり、真正面から原画の美しさ、その内的生命をどうとらえ再現するか一所懸命追求しておられます。その根気の良さは誰もかなう者がありません。朝七時五十分から午後五時まで、まるで座禅している修業僧のように坐り続けておられます。けれども一日の作業の内、波のように緊張感がやわらいだ時たとえばちょっと睡魔が訪れたような時でも、姿勢は変わらず熟睡なさり、筆も持った位置で静止し、しばらくの間…又波がもどるとも

との場所の点や線が変わらず描かれてゆく。その至難の術にはびっくりいたします。

模写の真価は、形や色や線や雰囲気と同じになる事以上に本質的な生命、作者の魂とでもいったら良いでしょうか、それが入っているかどうかという点にあると思います。かつて、ひとたび先生の模写を眼にした大佛次郎氏は、「すまなかった、模写というものを今までばかにしていた。君の模写は血がかよっている」と言っておかしく握手を求められたそうです。どうせ模写かという声をふり払えるような、知らぬ間にその画面にのめり込んでゆくような自然さ、静かな感動と実感の世界がそこにはあります。

模写は古代から、東洋西洋をとわず画家の画道精進の為と言われてきました。中国に於いても南齊の謝赫が絵の六法を唱え、伝移模写をかかげています。そしてもう一つ、先人の残した偉大な芸術作品を正確に後世に伝え残してゆくという重大な使命をもっています。原画は歴史と共に歳をとり、画面の素材は傷み、衰え、色褪せ、段々に灰になって消えてゆくのです。その為には、大切に保管し保存することと、活用の為には模写をして、伝統技法と精神を残すというまね



河津先生と筆者 (於京都国立博物館
文化財保存修理所
模写室)

がれ得ない時代継承という問題があります。

模写の方法は、写すべき対象をみながら写しとる臨写というもの、上げ写しと言って写すべき絵を下に敷き、その上から紙を上下し眼の残像を利用して写すものと二つあります。今は最も丹念にその面影を表わし得る上げ写し技法をとっています。あくまでも個性を入れず、忠実にその時代精神の真髄をたどり、たとえ剥落やとぎれとぎれの線であっても、平安時代の線は平安の線、鎌倉時代のものはそれなりにと描き分けられなければ意味がありません。模写には、当初の描かれた状態を再現する復原模写と、現状模写があり現状模写では一点の汚れ一筋の傷も無視せず現存の状態をすべて写しとり、しかもオリジナルの気品を大切に表わす事が必要です。

昭和二十四年一月法隆寺金堂壁画焼失後、模写の重要性が説かれ、文化庁から依頼を受けて、二十九年より平等院鳳凰堂を振り出しに法界寺・室生寺・栄山寺・富貴寺と現地模写が続けられて来ました。河津先生もその中のかけがえのない一人であられたのです。さかたんぼになったり、やぐらの上での御苦勞は想像を絶します。不自由を忍び無欲、無心に徹して絵に惚れ込み、命がけで模写が生まれた

のです。「遙かに仰がれて見え難し」という『栄花物語』の一節の様に、正に実際現地の寺へ行っても真暗で絵など何もみえなかったという事実が聞かれる時、模写は大変有意義なものと思います。

心にリズムを与えてくれる音楽的な画面、仏画臭くない神秘的な平安時代の壁画、九州大分県東半島にあります富貴寺、その壁画模写に参加させていただきましたのは三年前の真夏の事でした。弱輩である私が、半世紀も歳の違う経験豊かな老先生と初めて同じ仕事に取り組むことは、最初心配もしましたが、又とない機会でもあり、決心して模写修行の国内留学が始まった訳です。京都国立博物館文化財保存修理所内に新しく模写室が出来、その中で富貴寺壁画の再模写は行われています。

ものを言わずにものを言い、肉眼では見えないものをみぬき、聞こえぬものを聞いている偉大な背中を、毎日毎日みつめ、時間の止まった様な悠長なる世界をかみしめています。

話は変わりますが以前、前館長石沢正男先生からの依頼で大和文華館所蔵「伊勢物語下絵梵字経」の白描絵一巻を模写させていただきました事がなつかしく思い出されます。名品展で時々みかけますが参考資料となりえますれば幸いです。



富貴寺大堂 (大分県豊後高田市)

富貴寺大堂壁画 (模写)・部分

季刊 美のたより No.62

昭和58年 3月5日

発行 大和文華館